

## モスクワ五輪とソチ五輪の記録映画分析

法学部政治学科 4 年 伊勢まり愛

### 目次

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 第 1 章 はじめに .....                      | 1  |
| 1 - 1 目的・意義 .....                     | 1  |
| 1 - 2 分析の対象と方法 .....                  | 2  |
| 第 2 章 大会開催までの流れ .....                 | 3  |
| 2 - 1 モスクワ五輪 .....                    | 3  |
| a) 大会が開催されるまでの経緯 .....                | 3  |
| b) 国内反応と国際反応 .....                    | 3  |
| 2 - 2 ソチ五輪 .....                      | 4  |
| a) 大会が開催されるまでの経緯 .....                | 4  |
| b) 国内反応と国際反応 .....                    | 4  |
| 第 3 章 記録映画の概略 .....                   | 5  |
| 3 - 1 映画の紹介文 .....                    | 5  |
| a) モスクワ五輪 .....                       | 5  |
| b) ソチ五輪 .....                         | 6  |
| c) 小括 .....                           | 7  |
| 3 - 2 映画の描写分析（尺・構成） .....             | 7  |
| a) モスクワ五輪 .....                       | 7  |
| b) ソチ五輪 .....                         | 8  |
| 第 4 章 記録映画分析 .....                    | 10 |
| 4 - 1 映画の製作会社 .....                   | 11 |
| a) 伝統的な映画会社が製作を担ったモスクワ五輪 .....        | 11 |
| b) 革新的な映画会社が製作を担ったソチ五輪 .....          | 12 |
| c) 小括 .....                           | 12 |
| 4 - 2 監督 .....                        | 13 |
| a) 社会主義リアリズムの監督が製作したモスクワ五輪 .....      | 14 |
| b) 自身も脚本家も務め哲学者の父を持つ監督が製作したソチ五輪 ..... | 15 |
| 4 - 3 開会式と閉会式の描写 .....                | 16 |
| a) 厳かに式が執り行われたモスクワ五輪 .....            | 16 |
| b) 多要素も織り交ぜた映像で紡がれたソチ五輪 .....         | 18 |
| c) 小括 .....                           | 18 |

|                                          |    |
|------------------------------------------|----|
| 4－4 選手 .....                             | 19 |
| a) 成功する選手が描かれたモスクワ五輪.....                | 19 |
| b) 挑戦する選手が描かれたソチ五輪 .....                 | 19 |
| 4－5 文化表象 .....                           | 19 |
| a) 直接的な映像を入れたモスクワ五輪 .....                | 20 |
| b) 大会内での文化表象を切り取ったソチ五輪.....              | 20 |
| 4－6 映像表象 .....                           | 21 |
| a) モスクワ五輪 .....                          | 21 |
| b) ソチ五輪.....                             | 21 |
| 4－7 映画が看過した当時の状況 .....                   | 21 |
| a) 国際状況を見落としたモスクワ五輪 .....                | 22 |
| b) 組織的なドーピングを盛り込まなかったソチ五輪.....           | 23 |
| 第5章 記録映画分析のまとめ .....                     | 24 |
| 5－1 それぞれの記録映画で表現されたこと .....              | 24 |
| a) ソ連の正当性を示したモスクワ五輪 .....                | 24 |
| b) 選手の内面を示し世界の繋がりを表現したソチ五輪 .....         | 25 |
| おわりに 今後のスポーツ祭典で描かれる国家としてのロシアの姿について ..... | 27 |
| 参考資料 .....                               | 27 |

## 第1章 はじめに

### 1-1 目的・意義

本論文の目的は、モスクワ五輪（1980年）とソチ五輪（2014年）の開催に伴って製作された記録映画の内容分析を通じて、国家が発信を試みた国家の姿や選手の理想像の違いを明らかにすることである。二つの大会は、前者がソビエト社会主義共和国連邦（以下、ソ連）にて、後者がロシア連邦（以下、ロシア）にて開催された。両国は、ロシアがソ連の領土の一部を継承している点や使用言語などから共通項が多い一方、領土の広さや政治体制など本質的には異なる点も見出せる。政治体制の違いとして、強い権限を持つ存在の違いが挙げられる。ソ連は、「国家機関は連邦制をとりつつも、共産党組織が中央集権的な統治機構を形成し、党の優位の下で、党組織と国家機関が機能的にも実体的にもかなりの程度オーバーラップするという特徴を持っていた」[塩川 1993:36]。ソ連における共産党は、「中央での実質的な意思決定機関であっただけではなく、党組織を社会の隅々に巡らすことで、製作の遂行も担った」[溝口 2011:52]。1993年12月のロシア憲法の制定は、新しい政治体制を定めたものとして、ソ連が崩壊し政治体制がロシアのものへと変容していく過程での大きな転換点だと認識出来る[溝口 2011:51]。その憲法によって、ソ連の共産党体制に代わる二つの政治制度が確立した。政治制度として、中央での意思決定を行う制度として大統領制が、中央・地方関係に関する制度として連邦制が制定された[溝口 2011:52]。このようにソ連とロシアには、前者が共産党を中心とした政治体制であるのに対して後者が大統領制と連邦制による政治体制を構築しているという違いが見られる。

双方の国家の相違点は、両国が開催したオリンピック大会時にも顕著に見られる。それは開催国の違いや大会種類の違いである。モスクワ五輪は夏季大会であったが、ソチ五輪は冬季大会であった。加えて、両国が置かれた国際状況も大きく異なる。モスクワ五輪は一部諸外国が選手団の派遣を見送るなど西側諸国によるボイコットの影響を受けているが、ソチ五輪はそのような国際的混乱はない中で開催された。むしろソチ五輪は、ロシアの国家的な組織ぐるみでのドーピング問題という国内問題が取りざたされるきっかけとなった大会である。

前述したように異なる状況が認められる双方の大会には、大会開催を通じて国家が発信を試みた国家の姿や選手の理想像に違いが認められるのではないだろうか。

本稿ではこのような問題意識を掲げ、モスクワ五輪とソチ五輪開催における国家の姿と理想とされる選手像の違いを検討する。それは、次に挙げる要素で双方に違いがあるからだ。第一に、モスクワ五輪を開催したソ連とソチ五輪を開催したロシアは、異なる国家である。第二に、双方の開催時期は20世紀と21世紀と異なる。このような異なる背景を持つ双大会の記録映画を分析することで、本稿が検討を試みる観点を明らかに出来ると考える。

スポーツを通じて国家表象や国威発揚することは、これからのロシアでも盛んに行われると予想される。ロシアは近年、多くの国際大会のホストをしている。2018年にはサッカ

ーW 杯が開催され、来る 2023 年、ロシア・エカテリンブルグで、若者のオリンピックと呼ばれるユニバーシアードが開催される[JOC 2022]。また、サンクトペテルブルクやカザンの二都市は、2036 年のオリンピック夏季大会の開催候補地としてロシアが誘致を検討している[読売新聞 2021]など、ロシアの国際大会開催への熱量は高い。これらの国際大会が開催される際にロシアが置かれる国際状況は刻々と変化するだろう。本稿で取り上げる二つの五輪大会を取り巻いた国際状況も大きく異なった。モスクワ五輪は米ソの二大覇権のもとで開催され、ソチ五輪は米中の二大覇権が構築される過程で開催された。国際社会におけるロシアの位置づけが変化することで、国際大会をホストするロシアが発信するメッセージには変化があるのだろうか。また、日々状況が変化する国際情勢と異なり、どの時代にも普遍的に価値を有し存在する人の描き方に変化はあるのだろうか。それを鑑みる上での一助となれたら幸いである。

## 1－2 分析の対象と方法

オリンピックの開催時に各開催国の置かれる状態が様々であることは、前述のモスクワ五輪とソチ五輪を見ても明瞭である。これを踏まえて、本稿では大会開催後に製作される記録映画を題材に設定する。記録映画を通じて発信が試みられた国家の姿や選手のあるべき姿を読み解きたい。記録映画とは、オリンピックの大会開催後に、開催国によって製作される映画である[国立映画アーカイブ 2019]。IOC が開催国に製作を義務付けているため、記録映画は、双方の大会の共通資料であると考えられる。1912 年のストックホルム大会以降の記録映画は、公式サイト Official Films より視聴可能である[IOC 2022]。本稿で扱う記録映画はモスクワ五輪後の記録映画とソチ五輪後の記録映画である。モスクワ五輪の公式映画は、大会閉幕一年後の 1981 年にユーリ・オゼロフによって製作された『О СПОРТ ТЫ-МИР!』（英題『O Spurt, You are Peace!』）である。ソチ五輪の公式映画は、大会閉幕一年後の 2015 年にセルゲイ・ミロシュニチェンコによって製作された『КОЛЬЦА МИРА』（英題『Rings of the World Share』）である。

記録映画は、記録映画の製作陣と映画内容という観点から分析を行う。前述の製作陣では、監督や映画を製作した組織などのアクターを取り扱う。映画内容では、オリンピックの要素として欠かせない開会式・閉会式の演出に加え、選手の描かれ方、文化表象、映像技術に軸を置きつつ、適宜、ナレーションの言及内容についても取り扱う。それぞれの項目が分析に好ましい観点だと考えられる理由は、第 4 章にて詳しく述べるが、以下に概略を記す。

オリンピック開催後に製作される記録映画は、IOC によって製作が義務付けられている[国立映画アーカイブ 2019]。しかし、どの映画会社が製作するか・またどの監督に依頼するかといった内容に関しては取り決めがなく、各国のオリンピック委員会主導のもとで監督や配給会社などが決められてきた。開会式と閉会式そのものを企画編成するのは映画製作者ではなくオリンピック委員会であり、モスクワ五輪はソ連オリンピック委員会によって、ソチ五輪はロシアオリンピック委員会によって企画された。一方、ナレーションは記録

映画の製作過程においてはじめて登場する要素であるため、記録映画に独特のものと判断出来る。そして、記録映画に携わった製作者の意図や意識が大きく反映されていると言える。記録映画内で言及される言葉から、オリンピックを通じて発信が試みられた国家の姿を読み取りたい。選手の扱い方では、選手の挑戦や結果をどのように捉えているかを明らかにすることで、オリンピック大会での選手のあるべき姿を映画製作者がどのように捉えているのかを示す。

## 第2章 大会開催までの流れ

記録映画の分析に先立ち、両国がオリンピックの開催に至るまでの過程を記す。以下では、第75回IOC総会で開催が確定したモスクワ五輪と、第113回IOC総会で開催が確定したソチ五輪の招致の過程を述べる。その際、大会招致に対しての働きかけや開催決定したことに対する国民世論・国際反応への言及も行いたい。

### 2-1 モスクワ五輪

#### a) 大会が開催されるまでの経緯

オリンピックの招致に先立ち、モスクワでは入念な準備が整えられていた。スポーツ関係者やスポーツジャーナリストを世界中から招待し、モスクワの大会準備の過程などを視察させていた[池井 1983:87]。具体的には、「モスクワ郊外のフライラッコヤのボートレースのための人造湖をはじめとする整備のゆきとどいた競技場、競技施設を参観させ、(中略)ソ連のオリンピック関係者は、IOC 委員にパンフレットのみならず、競技場の詳細な模型を提出するなど」していた[池井 1983:80]。ここからも、ソ連が大会招致に関して大きな気概を有していたことが分かる。このような準備を経て、1974年オーストリアのウィーンで開催された第75回IOC総会において、1980年の夏季大会がモスクワで開催されることが決定した。ソ連のモスクワとともに開催都市に名乗りを上げていたのは、アメリカのロサンゼルスであった。しかし、ロサンゼルスは、住民の開催反対運動が起きたこともあり、開催宣言を取り下げることとなった[清川 1987:77]。こうして、モスクワは無投票で開催都市の座を手に入れる運びとなった。

#### b) 国内反応と国際反応

また初の自国開催となるオリンピックは、スポーツに対する国民の関心が高まっている中で開催されたものだと考えられる。大会開催の前年(1979年)には、ソ連の諸民族による大会「スパルタキアード」が開催された。スパルタキアードとは、オリンピック大会などの国際大会への参加を許可されなかったソ連が、スポーツ産業を後退させないようにする目的で国民を対象に開催したスポーツ大会イベントで、1928年から開催されている。ソ連がオリンピックへの参加を認められて以降、スパルタキアードはオリンピックの前哨戦と

も呼ばれる大会へと変質した。1979 年に開催されたスパルタキアードでは、初めて外国から選手を招待して開催され、事実上のモスクワ五輪の予行演習として機能した[RUSSIA BEYOND 2018]。この大会に次いで連続して開催されることとなったモスクワ五輪は、史上初の社会主義国でのオリンピック開催であるという自負を国民に与えることに留まらず、前年からのスポーツブームも相まって更なる注目を集めたスポーツ大会だったと想定される。

池井によれば、モスクワでの開催に対して、世界からの評価はおおむね良好であった。例えば英国 BBC は、ソ連の特集番組を組んで、大会を開催するソ連を紹介した[池井 1983 : 82]。そして、このような状況の背景には、「米ソのデタントに象徴される東西の緊張緩和が働いていた」[池井 1983 : 81]ことも後押ししているだろう。

## 2-2 ソチ五輪

### a) 大会が開催されるまでの経緯

ソチ五輪は、2007 年グアテマラのグアテマラシティで開催された第 119 回 IOC 総会において開催が決定された[AFPBB NEWS 2007]。ロシアのソチとともに開催都市に名乗りを上げていたのは、韓国の平昌とオーストリアのザルツブルクであった[AFPBB NEWS 2007]。一度目の投票でザルツブルクが敗戦し、決選投票において 51 票を獲得したソチが、47 票を獲得した平昌を上回る形で開催地に決定した[AFPBB NEWS 2007]。ソチはロシア南部に位置する温暖なリゾート地として知られている。そのため、冬季開催時の降雪量の不十分さが問題視されたり、大会用の競技場設営に莫大な資金を要することなどが懸念されたりしていた<sup>1</sup>。大会費用は誘致の当初は 120 億ドルと計画されていたが、大会開催に際して 510 億ドルまで膨れ上がり、開催された冬季五輪の中で最高額を記録した[ジュールズ 2021:71]。

### b) 国内反応と国際反応

自国で初めて冬季五輪が開催されることに関して、国民は大きな期待を寄せていたようだ。中国メディア「新華網」が報道した「ロシア社会世論基金」による世論調査結果は以下のようなものだ。

市民の 68%が「わが国はソチオリンピックを成功させることができる」と回答した。「五輪は成功する」と答えた人のうち 18%が「お金をたくさん使ったから」、13%が「大量の人、物、勢力をつぎ込んだから」との理由を挙げた。(中略) 全体の 65%が「五輪の成功は個人の大きな希望」であるとしたほか、25%の人が「われわれが1番であることを世

---

<sup>1</sup> ソチの雪不足に関して、日本国内で気象解説者 崎浜綾子による「ソチと日本の雪事象」と題された記事が刊行されたり、ソチでの雪不足に対してロシアオリンピック委員会のジュエーフ会長が「雪不足の問題はない」と表明したりした[崎浜綾子 2014][JOC 2013]。

界に証明したい」、「ロシア国民として、国を誇りに思いたい」と答えた。「今大会でロシア人が活躍すると信じている」と答えた人は72%に達した[Searchina 2014]。

これらは、ソチ五輪に対しての準備が着実に取り組んでいることに対する評価でもあり、開催される大会に対しての期待でもあると理解出来る。一方で、全ロシア世論調査センターによって、既にチケットなどを手配し実際に現地での観戦予定があるロシア人や今後何らかの形で現地での観戦を予定しているロシア人は0%であるという結果が明かされていることにも着目したい[日本経済新聞 2014]。これは、旅費が高騰しており一般国民の手が届く範囲ではなくなってしまったことや、オリンピックの開催期間が長期休暇に当たらないことなどが理由とみられている[日本経済新聞 2014]。しかし同調査においても、ソチ五輪開催の認知度は98%とであり、依然として高い数字に表れている[日本経済新聞 2014]。

国際的には、アメリカの世論に着目すると、ソチ五輪の開催中にテロが発生すると予測しているアメリカ人が57%に上っている[CNN 2014]。これは、インタビュー調査がなされた2014年2月から過去数カ月間、ロシアでテロ事件やテロ組織掃討作戦が起きていることに対しての懸案が高まっていることを示している[CNN 2014]。

ここから、ソチ五輪では、国内状況と国際状況と熱量の差があることが窺える。国内では五輪開催への期待が高まる中、外国からはロシア国内での治安維持を懸念され冷静に捉えられていたという状況が確認出来る。

### 第3章 記録映画の概略

第三章では、双方の大会記録映画の内容や描写を記す第四章の前に、映画の概略理解のために、(1) 映画の紹介文、(2) 映画の構成を確認する。

#### 3-1 映画の紹介文

以下では、それぞれの作品紹介を確認する。参照する作品紹介はそれぞれ二つあり、一つは記録映画の製作を命じているIOCが運営するサイト Olympic Channel 内での作品紹介、他方はそれぞれの映画制作会社による作品紹介の二つである。

##### a) モスクワ五輪

149分に亘るモスクワ五輪の記録映画『О СПОРТ ТЫ-МИР!』は、Olympic Channel では次のように紹介される。

ソ連軍のアフガニスタン侵攻に抗議するアメリカがボイコットを主導したため、モスクワでの夏季オリンピックに参加したのは80の国と地域のみ。しかし、開催国ソ連はこの窮地を乗り越えるべく奮起し、開会式と閉会式に多くの力を注いだ。アメリカ勢の不在は(と

りわけスプリント競技で) 目立ったものの、ボクシングヘビー級でキューバのテオフィロ・ステベンソンの 3 連覇を阻む者はいなかった。本作品ではソ連で人気の高いレスリング、ウエイトリフティング、体操競技が大きく取り上げられている[IOC 2016]。

また、記録映画を製作したソ連の配給会社モスフィルム（露：Мосфильм）による紹介は次のように行われる。

モスクワオリンピックの記録映画です。映画では、緊張感のあるスポーツの戦い、チャンピオンたちの記録の数々、オリンピックの色鮮やかな開会式と閉会式が描かれています[Мосфильм2022A]。（ロシア語を基に筆者が訳を作成。）

#### b) ソチ五輪

184 分にも亘るソチ五輪の記録映画『КОЛЬЦА МИРА』の説明もモスクワ五輪と同様、Olympic Channel と映画の製作会社の双方を用いて確認する。まずは、Olympic Channel の紹介を参照する。

高度な撮影術を駆使しつつ、アスリートの内面に攻めるインタビューをふんだんに盛り込んだこのドキュメンタリーでは、オリンピックレベルでの男女平等実現が強調されている。スキージャンプに女子が初参加し、アイスホッケー女子決勝ではカナダがアメリカに対して劇的な勝利を収めた。そのほかスピードスケート、フィギュアスケート、エアリアル、カーリング、バイアスロンなどをフィーチャー。本番だけでなくトレーニングも分析の対象となっている。アクシデントあり、悔しさの涙ありの大会は、勝利だけがオリンピックのすべてではないことを思い出させてくれる[IOC 2014]。

また、記録映画を製作したロシアの映画会社スタジオオーストラフ（露：Студия Остров）による紹介は次のように行われる。

映画『Кольца мира』は国際オリンピック委員会（スイス、ローザンヌ）の命令により作成された公式映画のステータスを持っていますが、この概念の範囲をはるかに超えています。これは 2014 年ソチ冬季オリンピックの単純記録ではなく、21 世紀初頭のスポーツ哲学と優秀なアスリートの対決を描いた映画の叙事詩です。痛み、恐れ、闘争、勝利の喜び、そして敗北の苦しみ冬季オリンピックの刺激的な映像は、ソチでプレイされ、地球全体の観客に素晴らしい、正直なスポーツ！映画は、世界のスポーツスターを人間の内側から見ることができ、彼らの性格を明らかにしています。英雄たちは、現代世界におけるスポーツの役割についての見解を表明し、戦争、愛国心、道徳、スポーツと社会の両方で変化している男性と女性の原則のバランスについても議論しています...



スポーツは通常、筋肉と言われています。スポーツは知性だと思います。現代のオリンピック運動の創設者であるピエール・ド・クーベルタン男爵は、オリンピズムのアイデアは人々を団結させ、民族間の紛争、社会に蓄積された攻撃性に抵抗できると信じていました。クーベルタンは真のヒューマニストでした。現代の世界では、これだけでは十分ではありませんが、人類のためにすべてが失われるわけではなく、スポーツの助けを借りて、行き止まりにならない道を見つけられるように願っています。これが映画「Кольца мира」の内容です[Студия Остров 2015]。(ロシア語を基に筆者が訳を作成。)

#### c) 小括

モスクワ五輪の紹介では、国際的なボイコット下という開催状況、開会式と閉会式の華やかさ・選手が打ち出した記録の数々という単語が目立つ。一方で、ソチ五輪の紹介では、高い映像技術、男女の平等性、試合内外に及ぶ選手たちの心情、スポーツの力がもたらす国際社会の前進ためのヒントという表現を確認することが出来る。この紹介に現れるそれぞれの映画の性質は、映画の構成にも反映されていると考えられる。次節では、各映画の構成を記す。

### 3-2 映画の描写分析（尺・構成）

いずれの大会においても、おおよその構成は変わらず、大会前、大会、大会終了の様子の三種類が描かれている<sup>2</sup>。しかしながら、それぞれの捉え方に違いが見られる。例えば、どの期間を大会前と捉え映画内に盛り込むのか、大会や大会終了の様子として何を切り取るのか、という観点の違いである。以下では、モスクワ五輪とソチ五輪の双方の記録映画のおおまかな構成を記す。

#### a) モスクワ五輪

『О СПОРТ ТЫ-МИР!』において、大会前の様子は、三方向から描かれる。聖火の歴史を示す古代ギリシャの様子、聖火がモスクワに到着するまでの様子、西側諸国がボイコットを決定した後の様子である。大会の様子は開会式に始まり、大会試技に関しては「より速く」、「より高く」、「より強く」の三部構成の元、大会新記録を樹立する選手の活躍がまとめられている。大会終了の様子では、閉会式が執り行われる様子が描かれる。映画内における具体的な時間の配分については、以下の表1を参照されたい。

<モスクワ五輪記録映画の内容>（表1）

| 時間 (h:m:s) | 内容 | 備考 |
|------------|----|----|
|------------|----|----|

<sup>2</sup> 大会という表現は便宜上、開会式によって大会が開始され閉会式によって大会が閉幕したものであるとする。

|                 |              |                  |
|-----------------|--------------|------------------|
| 0:00:00～0:04:46 | 聖火と聖火ランナー    | 古代ギリシャのアニメーション   |
| 0:04:46～0:08:54 | タイトルと関係者表示   | モスクワの有名地を背景に     |
| 0:08:54～0:12:38 | 外国人の入国と開会式入場 | 飛行機から手を繋ぎ、人が飛行   |
| 0:12:38～0:17:52 | 開会式①         | ブレジネフによる開会宣言     |
| 0:17:52～0:18:34 | インタビュー       | 日本人の不参加決定に関して    |
| 0:18:34～0:31:25 | 開会式②         | 聖火点灯や開会宣言含む      |
| 0:31:25～0:33:22 | 一部選手紹介       | ダイジェスト           |
| 0:33:22～0:56:29 | より速く①        | マラソンなどの陸上競技      |
| 0:56:29～0:58:47 | より速く②        | 自転車競技            |
| 0:58:47～1:00:50 | より速く③        | ヨット競技            |
| 1:00:50～1:38:38 | より速く④        | 水泳競技             |
| 1:38:38～1:05:24 | より速く⑤        | 飛び込み競技           |
| 1:05:24～1:06:08 | ソ連の子ども       | 生後間もない赤ちゃんが水に浮かぶ |
| 1:06:08～1:20:55 | より高く①        | 女性選手中心陸上競技       |
| 1:20:55～1:22:02 | ソ連の街紹介       | 第二幕・夜の風景         |
| 1:22:02～1:29:45 | 競技場・ソ連文化紹介   | 熊のサーカス・バレエなど     |
| 1:29:45～1:37:25 | より高く②        | 体操競技             |
| 1:37:25～2:07:55 | より強く         | 砲丸投げなど陸上競技       |
| 2:07:55～2:08:45 | 会見           | モスクワ五輪の成功        |
| 2:08:45～2:21:28 | 閉会式          | ミーシャの涙と童謡の世界への飛行 |

#### b) ソチ五輪

『КОЛЬЦА МИРА』において、大会前の様子は、二方向から描かれる。聖火がソチに到着するまでの様子と、大会競技場が建設されるまでの様子である。大会の様子は、開会式その他、競技ごとに複数の選手・コーチなどの関係者のインタビュー形式を用いて大会試技の様子が描かれる。大会終了の様子は、閉会式の様子が描かれる。映画内における具体的な時間の配分については、以下の表2を参照されたい。

#### <ソチ五輪記録映画の内容> (表2)

| 時間              | 内容                                | 備考                               |
|-----------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| 0:00:00～0:08:58 | ・聖火と聖火ランナー<br>・タイトル関係者表示<br>・開会宣言 | 聖火はロシアの有名地を巡る<br><br>プーチンによる開会宣言 |
| 0:08:58～0:10:24 | 雪山と一般人スキーヤー                       | ドローン撮影                           |
| 0:10:24～0:15:53 | 二人の女性スキージャンプ選手                    | 飛行シーンが逆再生                        |

|                 |                                                     |                                                |
|-----------------|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 0:15:53～0:24:38 | 二人の男性バイアスロン選手                                       | ライバル関係<br>ジンクスはある？ない                           |
| 0:24:38～0:25:54 | ジンクスと選手・キャスターなどサポート団入国                              | →私はある（導入）電車と飛行機のクロス                            |
| 0:25:54～0:31:35 | 二人の男性エアリアル選手                                        | 一画面に複数選手の試技映像                                  |
| 0:31:35～0:31:50 | 怖さのインタビュー                                           | これまでの選手ほぼ全員登場                                  |
| 0:31:50～0:32:20 | 競技場の様子・観客来場                                         | ドローン撮影                                         |
| 0:32:20～0:40:58 | 男性スピードスケート選手                                        | コーチの映像<br>山中での自転車練習映像                          |
| 0:40:58～0:47:47 | 男性ショートトラック選手                                        | 韓国からロシアに帰化<br>失敗する選手も多数                        |
| 0:47:47～0:50:30 | 昨日より健康になりたいならを歌唱<br>文化紹介                            | 選手たちの昨日より成長するために行うことについて                       |
| 0:50:30～0:57:36 | 二人の男性アイスホッケー選手                                      | ロシアの敗退                                         |
| 0:57:36～0:59:29 | オリンピック選手の国家への思い 愛国心                                 | ロシア×スイス選手の苦悩                                   |
| 0:59:29～1:09:27 | 男性スノーボード（ハーフパイプ）選手                                  | スローモーション撮影                                     |
| 1:09:27～1:26:21 | メディアの役割とバイアスロン<br>女性選手特集<br>スポーツと政治のインタビュー          | 男性競技の方がより面白い？昔は殺されたが今は敗者も称える<br>政治と競技は別ベクトルである |
| 1:26:21～1:30:55 | 男性バイアスロン選手                                          | 普段の練習風景                                        |
| 1:30:55～1:38:02 | 女性カーリング選手                                           | IT 会社勤務、カナダに敗戦、自宅で演奏した音楽が BGM に                |
| 1:38:02～1:44:55 | 女性スピードスケート選手                                        | 民族衣装と音楽で応援<br>コーチの支えについて                       |
| 1:44:55～1:46:46 | 失敗・敗北に関するインタビュー                                     | ×競技に負ける ○自分自身が諦める                              |
| 1:46:46～2:06:22 | 二人の男性スケート選手と女性スケート選手                                | 羨むことが次の活力に<br>怪我で練習時点で棄権<br>競技やり切って安心          |
| 2:06:22～2:16:48 | 二人の男性アイスホッケー選手<br>二人の男子アイスホッケーコーチ<br>審判に関しては複数アスリート | サブサン号で移動する選手<br>アイスホッケー審判の判断について<br>失敗の怖さについて  |

|                 |                                          |                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2:16:48～2:26:50 | 4人のコーチ<br>複数のアスリート                       | アイスホッケーを舞台に女性の<br>強さについて<br>アメリカとカナダの対戦                                                                                                                                                          |
| 2:26:50～2:28:50 | 複数のアスリート<br>3人のコーチインタビュー<br>メダル授与スタッフの訓練 | なぜ勝負をするのか<br>勝つこと・勝利とは何か                                                                                                                                                                         |
| 2:28:50～2:35:10 | 三人の女性モーグル選手                              |                                                                                                                                                                                                  |
| 2:35:10～2:36:30 | 複数アスリートインタビュー                            | オリンピックとは何か                                                                                                                                                                                       |
| 2:36:30～2:45:04 | 女性ロシア人アイスダンスコー<br>チ                      | アイスダンスを鑑賞する男女<br>ロシア人作曲家でプログラム<br>(米・加選手)                                                                                                                                                        |
| 2:45:04～2:46:45 | 複数のアスリート<br>2人のコーチ                       | 才能の活用の仕方<br>家族の支えについて                                                                                                                                                                            |
| 2:46:45～2:54:18 | 男性アイスダンス選手<br>女性アイスダンス選手                 | 苦痛と失敗について<br>成功と国家について                                                                                                                                                                           |
| 2:54:18～3:00:00 | 閉会式<br>選手コーチのインタビュー                      | 国家合唱からロシアの歓声<br>バツハ会長のメッセージ<br>ホッキョクグ・ノウサギ・ヒョ<br>ウのキャラクター入場<br>勝利した選手の感想<br>競技するキャラクター<br>灯の前に集まりキャラクターが<br>息を吹きかけると聖火台の火が<br>消える 悲しみに涙を流す<br>ホッキョクグマのキャラクター<br>から涙が落ちる<br>キャラクターが倉庫に戻り扉が<br>閉まる |
| 3:00:00～3:03:38 | エンディングクレジット                              |                                                                                                                                                                                                  |

#### 第4章 記録映画分析

以下では、具体的な項目を設定し、それぞれの項目について記録映画を比較検討する。設定する項目は、(1) 映画の製作会社、(2) 監督、(3) 大会運営、(4) 文化表象、(5) 映像表象の五項目とする。尚、これら各項目を設定した理由は、各項目の冒頭に示す。

#### 4-1 映画の製作会社

記録映画の製作は、開催国のオリンピック委員会に一任されており、製作会社や監督を任意に設定出来る。従って、モスクワ五輪もソチ五輪も、記録映画の製作会社を決定したのは、開催国（ソ連・ロシア）のオリンピック委員会だと判断出来る。

モスクワ五輪の記録映画の製作を担ったのはモスフィルムであり、ソチ五輪の記録映画はスタジオオーストラフによって製作された。両国のオリンピック委員会が、記録映画の製作に異なる映画会社を選出していることは、次の理由から一考に値する。各映画会社の得意とする表現分野による作品製作がなされることで、大会記録映画の内包するイメージに変化が生じると考えられるからだ。映画会社の性質を明らかにすることで、ソ連・ロシア両オリンピック委員会がそれぞれの大会記録映画を通じて描かれることを希望した国や大会の世界観の違いを発見出来るのではないか。そのため、本節では、モスクワ五輪とソチ五輪の映画製作会社が異なる理由を検討することを目的に、各映画会社の特徴を比較したい。

例えば、1964年の東京五輪の記録映画は、JOCを通じて、日本人映画監督の市村崑によって撮影された。当時は斬新であった選手個人に着目するという映画構成は、日本国民から賞賛を浴びた。しかし、内閣や自民党は、市川の作品を問題視していた。なぜなら「「オリンピック映画」とは、競技全体を時系列的に過不足なく記録する、ハイライトシーンをドラマチックに強調する、世紀の祭典の感動をフィルムに永遠にとどめる、というものであったに違いないが、その期待から大きく外れるものだった」からだ[笹川財団 2021]。とりわけ、国の経済発展が描かれなかったことに対して、自民党本部でオリンピック担当大臣を務めた河野一郎から反発が湧いた[吉見 2020:199]。このような怪しい雲行きを察知した文部科学省は、当初予定されていた文科省推薦映画の推薦を自ら取り下げ、映画のお墨付きがなくなるといった事態が発生した[吉見 2020:200]。更には、新しい監督のもとで記録映画を再度撮り直すことさえも提案されるまでに至った[吉見 2020:198]。この事例は、オリンピック委員会はあくまで記録映画の製作会社や監督を選定出来るが、作品の方向性を指示することは出来ないことを窺わせる。従って、記録映画は、製作会社や監督の意思が大きく反映される媒体であると考えられる。

##### a) 伝統的な映画会社が製作を担ったモスクワ五輪

記録映画『О СПОРТ ТЫ-МИР!』は、ソ連から現存する映画製作会社のモスフィルムによって製作された。モスフィルムは、1923年に誕生したソ連（現：ロシア）の映画製作会社であり、ロシア国内に現存する映画製作会社の内、最古のものである[Мосфильм2022B]。また、TASS 通信によれば、モスフィルムは、ロシア国内で製作される映像作品のその多くを担っており、2500以上に上る作品を世に輩出してきた[TACC 2014]。代表作には、1925年に公開されたセルゲイ・エイゼンシュテイン監督の『戦艦ポチョムキン』（露：Броненосец «Потёмкин»）[Мосфильм2022C]や 1967年に公開されたセルゲイ・ボンダルチューク監督の『戦争と平和』（露：Война и мир）がある[Мосфильм2022D]。モスクワ五輪の組織委員

会は、記録映画の製作を、映画のリーディングカンパニーと呼べるモスフィルムに任せたのである。記録映画の製作を由緒正しい国営の映画会社担うということからは、ソ連が国家の一大イベントとしてオリンピックというメディアイベントを記録しようとする心意気が見られていると理解出来る。併せて、オリンピック委員会は、映画内に伝統的な事柄を継承する国家の姿が反映されることを望んでいたのだと推測することが出来る。

#### b) 革新的な映画会社が製作を担ったソチ五輪

記録映画『КОЛЬЦА МИРА』は、スタジオオーストラフによって製作された。スタジオオーストラフは1999年に、創造的なアイデアを実現するために誕生した[СТУДИЯ ОСТРОВ 2022]。代表的な作品には、ソチ五輪の記録映画の監督も務めたセルゲイ・ミロシュニチェンコ監督の『ソ連生まれ』（露：Рожденные в СССР、1991年）、同監督の『ゲオルギージェーノフ ロシアの十字架』（露：Георгий Жженов. Русский крест、2005年）、ロシアの作家、劇作家としても知られるアレクサンドル・ソルジェニーツィンを映画化した『アレクサンドル・ソルジェニーツィン』（露：Александр Солженицын、1992年）などがある[СТУДИЯ ОСТРОВ 2022]。製作した作品を賞やコンテストに出品する際は、作品の種類や監督の年齢にこだわらずに多様な作品を出品し、受賞歴も多くある[СТУДИЯ ОСТРОВ 2022]。ここからは、新進気鋭な作品や闊達とした映画会社であることを窺わせる。ソチ五輪の記録映画には、保守的な姿を持つ国家の姿が描かれることより、新しい事柄に挑戦する挑戦的な姿勢を持つ国家の姿が描かれることが期待されていたのではないか。

スタジオオーストラフは、ロシアの主要テレビ局との協力体制もあり[СТУДИЯ ОСТРОВ 2022]、ソチの記録映画はテレビチャンネル「ロシア（露：Россия）」の協力の元で製作されている。ロシアのテレビ局「ロシア」が、国営の企業であり[Первый Российский Национальный канал 2022]、これがスタジオオーストラフと協力体制にあることは、ソチ五輪の記録映画が国家の思惑から必ずしも自由ではないことが示唆される。挑戦する姿勢を持つ映画会社によって記録映画が製作されていても尚、国家との断ち切れない関係性があることは着目すべき点である。

#### c) 小括

モスクワ五輪とソチ五輪の記録映画を製作した映画会社にはそれぞれ、国との関係を示す繋がりを確認することが出来た。しかし、前者は国有の映画会社による製作であったのに対し、後者の映画会社そのものは国有ではないが国営のテレビ局と協力関係にある、という国家との関係性の濃淡も認められた。ここから、モスクワ五輪の方がソチ五輪よりも、より国家の思惑を反映している映画作品になっていると推測することが出来る。

最後に、記録映画内の描写における映画製作会社の扱いを記す。どちらも映画製作会社と監督などの主要な製作陣は冒頭で示されており、目立った違いは確認出来ない。しかし、ソチ五輪の記録映画では、ロシアのテレビチャンネル「ロシア」など冒頭に紹介される製作

会社が複数あることや、エンドロールクレジットで再度映画関係者を流す描写があり、モスクワ五輪との違いが見られる。

#### 4-2 監督

モスクワとソチ五輪の記録映画はそれぞれ前述した映画会社に属する映画監督によって製作された。前者がユーリ・オゼロフ（露：Юрий Озеров）、後者がセルゲイ・ミロシュニチェンコ（露：Сергей Мирошниченко）である。以下では、この二名の映画に対するスタンスや考え方の違いを明らかにすることで、それらが映画作品に対してどのような違いを創出しているのかを検討したい。

検討に先立ち、映画を構成する要素が多く存在する中で、映画監督の意思が重要視されることの必然性について、佐藤和枝の先行研究を基に紐解く。佐藤は、ベーラ・バラージュ（洪：Balázs Béla, 1884-1949）やペーター・メルテスハイナー（独：Peter Märthesheimer, 1937-2004）の意見を織り交ぜながら、「放送劇とテレビ映画の作者は、脚本家であるのに対して、映画の作者は脚本家ではなくて、監督なのである」との結論を導いた[佐藤 2001：152]。

佐藤は第一に、ベーラ・バラージュの主張に基づき、演劇と映画の違いを、監督だけに製作権を与えられているものが映画であると示した。演劇は戯曲と上演が相互に織りなされているものである。そのため、戯曲に関わる音楽家は戯曲のみを表現し、反対に上演に関わる演者と演出家も、上演のみを表現することになる。そのため、観客は、戯曲による表現と上演による表現を基に、演劇の完成度について評価を下す監視の役割が付与されるという。このことが、演劇において監督よりも演出家の方が上位評価される理由になるという。一方、映画が観客に与えるものは、監督によって作られた映像のみで、演出家や音楽家がどのように表現しているのか観客に監視させる余白がないという。そのため、観客は映画を評価したり監視したりすることは出来ず、目の間にある作品を気に入るか気に入らないかの二択の選択をするのみに陥ってしまう。

第二に、ペーター・メルテスハイナーは、舞台劇・放送劇・テレビ映画と映画の違いを説いた。そして映画において、脚本家の評価より映画監督の評価が先行する理由を次のように定めた。前者の三形態では脚本が占める重要度が高いのに対し、映画では低いためだという。前者の三形態における脚本は、作品内での活用を目的に作成されるため、その成立過程が重視されている。映画では、映画に引き渡すために脚本が作成されるという。この違いが、それぞれの形態における評価の比重に影響しているのだ。最終的に完成するテレビ映画と劇場映画の作品形態が似通っているという指摘に対して、その事実を認めつつも、テレビ映画には、人のナレーションを基に作品が進行することや撮り直しが出来なかったという成立背景があるため、演劇の要素と近いと判断出来る。

以上の議論を通じて、佐藤は、「放送劇とテレビ映画の作者は、脚本家だが、映画の作者は監督」だと結論付けたのである[佐藤 2001：152]。本節では、この先行研究を踏襲し、映

画の作者は映画監督であるとの立場に立つ。そして、双方の記録映画には、それぞれの監督の意思が反映されているのだと判断する。監督の性質を各々明らかにすることは、記録映画に内在された国家の姿を導き、また、国家の姿の違いを検討するのに有効的だと考える。

a) 社会主義リアリズムの監督が製作したモスクワ五輪

モスクワ五輪の記録映画の監督は、ユーリ・オゼロフ（露：Юрий Николаевич Озеров、1921-2001）である<sup>3</sup>。オペラ歌手の父親と演劇学校の学生経験のある母親と間に生まれた。1939年には、アナトーリー・ルナチャルスキーの名を冠した国立演劇単科大学（現在のロシア舞台芸術アカデミー）に入学するものの、同年に赤軍に招集され、第二次世界大戦に参加するなど軍人としての青年時代を過ごした。演劇を本格的に始めたのは、除隊後の1945年以降である。アナトーリー・ルナチャルスキーの名を冠した国立演劇単科大学での学習を再開させ、1946年には、全ロシア映画大学<sup>4</sup>へと籍を移す。全ロシア映画大学では、作家でもあるイーゴリ・サフチェンコ（露：Игоря Савченко、1906-1950）のもとで学び、51年に同大学を卒業した。

彼は、1952年に『ニキツキー植物園にて』（露：В Никитском ботаническом саду）で映画監督としてのデビューを果たした。1968年から1972年にかけて製作した、第二次世界大戦を記録した五部作品『解放』（露：Освобождение）をきっかけに、戦争映画監督として頭角を現すようになった。『解放』では、自身も映画の脚本執筆を務めた。その他、1972年の『自由の兵士』（露：Солдаты свободы）など、戦争映画の製作に励んだ。1970年代後半から1980年代前半にかけては、スポーツ映画を描くようになり、モスクワ五輪の記録映画もこの時期に製作された。その他には、1979年のドキュメンタリー映画『スポーツのバラード』（露：Баллада о спорте）、1980年の『オリンピックの祝日』（露：Олимпийский праздник）、『オリンピックとの別れ』（露：Прощание с Олимпиадой）などのスポーツ映画作品が挙げられる。その後は、スポーツ映画から戦争映画監督へと踵を返したが、同時に後輩の指導にもあたった。1979年から1991年までソ連映画研究所（露：Всесоюзный государственный институт кинематографии）にて教鞭をふるい、1971年から1986年にはソ連映画評議会（露：Союза кинематографистов СССР）で書記を務めるなどした。

1972年にはレーニン賞、1982年には文学・芸術・建築部門におけるソ連国家賞を受賞し、彼の功績は称えられた。1995年に製作したドキュメンタリー映画『偉大なる指導者ギオルギー・ジューコフ』（露：Великий полководец Георгий Жуков）が、彼にとっての最後の作品とな

---

<sup>3</sup> 彼の生涯は、ТАССに基づいてまとめる[ТАСС 2022A]。以下、格段の記述がない限り、4-2 a)の記述は、ここに基づくものとする。

<sup>4</sup> 全ロシア映画大学とは、1919年に設立された世界初の映画大学である。ロシア連邦文化庁の管轄下にある国立の大学で、有名な指導者には、モスフィルムにて『戦艦ポチョムキン』を製作した、セルゲイ・エイゼンシュタインなどが存在する[ВГИК 2022]。



り、2001年にモスクワで息を引き取った。

彼の映画によく見られる「戦争」や「スポーツ」などの題材は、社会主義リアリズムに属する人物にとって定番である。このような題材が選出されていることから、彼が社会主義リアリズム<sup>5</sup>に傾倒した映画監督だと判断出来よう。記録映画の監督に社会主義リアリズムの傾向が見られる場合、記録映画には自ずと国家を礼賛する描写が多くなることが想定される。モスクワ五輪の記録映画では、成功を収める選手や大会運営の在り方を称賛する IOC 会長の会見が描写されている。ここからも国家礼賛の姿勢を読み取ることが出来よう。

b) 自身も脚本家も務め哲学者の父を持つ監督が製作したソチ五輪

ソチ五輪の記録映画の監督は、セルゲイ・ミロシュニチェンコ（露：Сергей Валентинович Мирошниченко、1955-）である<sup>6</sup>。第二次世界大戦の参加者で哲学者の父と数学教師の母のもとに生まれた。1970年代の学生時代は、レニンスキー・コムソモールの名を冠したチェリャビンスク工科大学（露：Челябинский политехнический институт им. Ленинского комсомола）で過ごすものの卒業はしておらず、テレビスタジオで照明器具士として働いたり映画スタジオでアシスタントカメラマンをしたりしていた。1983年には、全ロシア映画大学に入学し、詩人でもあるアレクサンダー・コチエトコフ（Александр Сергеевич Кочетков、1900-1953）名誉教授のもとで学んだ。

1993年から1999年まで映画スタジオ「トリテ」で働き、その後、1999年にスタジオオーストラフを創設し現在は監督も務めている。代表作品には、ドイツで開催された国際映画祭で優秀賞を収めた『レディ・ツンドラ』（露：Госпожа тундра、1986年）やスターリン主義の結果について描きニカ賞を受賞した『そして過去は夢のようだ』（露：А прошлое кажется сном...、1989年）などが挙げられる。その他に、各階層の子ども達の時代における心境の変化を追うドキュメンタリー作品『ソ連生まれ』（露：Рожденные в СССР、1991年）などがある。『ソ連生まれ』は、『7年』、『14年』、『21年』、『28年』などのシリーズものの作品で、現在でも新規作品の製作がなされている。ソチ五輪の記録映画の制作時期に近い2010年近辺には、肖像画作品を多く手掛けている。また、これらの作品の多くの脚本も彼自身が執筆していることは、特筆に値する。

---

<sup>5</sup> 社会主義リアリズムとは、「1930年代初めにソ連で提唱され、34年の作家同盟規約で＜ソビエト芸術文学および文学批評の基本的な方法＞と規定された芸術的方法、同規約では、＜社会主義リアリズム＞とは、＜現実をその革命的発展において、真実に、歴史的具體性をもって描く＞方法であり、その際、＜現実の芸術的描写の真実さと歴史的具體性とは、勤労者を社会主義の精神において思想的に改造し教育する課題と結びつかなければならない＞」と説明される芸術の方向性を規定するものである[川端1989：260]。

<sup>6</sup> 彼の生涯は、TACCに基づいてまとめる[TACC 2022B]。以下、格段の記述がない限り、4-2b)の記述は、ここに基づくものとする。

1998 年以降は、自身も卒業した全ロシア映画大学にて教授を務め、国際映画祭「予感」(露: Предчувствие) にて顧問を務めるなど映画界の重鎮として名をはせる。その他、ロシア映画芸術アカデミー、ロシア国立映画芸術科学アカデミーの会員でもある。2020 年には、国民名誉勲章を受章するなど現在でも第一線で活躍している。

彼が生きている時代は、芸術に対する制約が少なくなった時代だと考えられる。また、彼自身が映画の製作と脚本執筆の双方をこなす人材であることも相まって、映画にはますます彼の世界観が反映されやすい状態が整っていると言える。ソチ五輪の記録映画が、スポーツ選手の心情をふんだんに取り入れる作風に仕上がったことには、哲学者であった彼の父からの受ける影響も大きかったのだと推測できる。

#### 4-3 開会式と閉会式の描写

オリンピック大会において、競技以外に注目を集めるのが開会式と閉会式だ。開会式と閉会式のどのシーンを切り取るかという選択は、映画監督に与えられた権利である。しかし、開会式・閉会式そのものは、大会を運営する上で実施された行程だ。そのため、五輪大会の開会式と閉会式を企画している組織が描き出すことを望んだ国家の姿を探ることが出来る。開会式と国威発揚を結び付ける考えは、さほど珍しいことではなく、愛知県立大学外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語専攻の学生グループは、リオデジャネイロオリンピックの開会式を題材にブラジルの国家表象を確認する研究を准教授 渡会環のもとで行った。ここでは、「オリンピックの開会式とは開催国にとって世界中に自国をアピールし表象していくまたとない機会」だとされている[渡会 2017: 6]。また、田中東子は、2000 年のシドニー五輪での開会式では、アボリジニーとオーストラリアの少女を中心に描かれる民族の融和を表現し、世界へのメッセージを発信したと分析している[田中 2012: 165]。また、周星は、2008 年北京オリンピックの開会式を題材に、「中国政府がオリンピック開会式を通じて世界に伝えようとした情報、つまりオリンピック開会式を通じて構築しようとした中国の「イメージ」及び「イメージ」に対する外部社会の反応を分析」している[周 2012: 82]。ここから、本節では、オリンピックの開会式を分析することで国家が発信を試みたメッセージの読み取りが可能になると判断した。開会式と同様に、閉会式にも国家から発信されるメッセージがあるだろう。記録映画を用いてオリンピックの開会式・閉会式の分析を行う場合、確かに、映画監督の思考から自由にならないという制約が生じるのは否めない。しかし、オリンピックの開会式や閉会式の記録へのアクセスは容易ではないため、記録映画を分析の資料にすることに、一定の正当性が認められると認識する。これらを踏まえ、以下では、開会式と閉会式を通じて発信が試みられた国家のメッセージを読み解くことを目的に、両大会における開会式・閉会式がどのように執り行われたのかを分析する。

##### a) 厳かに式が執り行われたモスクワ五輪

モスクワ五輪の開会式及び閉会式の演出を検討することに先立って、記録映画内での描

写の特徴を述べる。それは、淡々と式の様子を映し出しているということである。開会式や閉会式の描写の間に、それぞれに関係しない映像が挟み込まれることはなく、式に関する演出のみが映し出され、式が厳かに執り行われた様子が映し出されている。

#### a-1) 開会式

モスクワ五輪の開会式は、観客席にいる人が大会エンブレムを作ったり、地上トラックにいるチェブラーシカの着ぐるみを着た子ども達や、民族衣装を着た大人が輪になって踊ったりしている。選手入場ではオリンピックの源泉ともいえるギリシャの選手団を写している。ブレジネフによる開会宣言、聖火点灯がなされている。時折、アメリカ国旗を持っている人が映し出されている。これらに示されるように、全ての作業を人力で行っていることが特徴として挙げられる。聖火台にランナーが火をともし場面でも、地上から高い位置にある通り道を作っているのは、人である。彼らは、頭上に板のようなものを掲げて聖火ランナーがその上を通れるように道を作っているのである。

また、人力とは別の観点ではあるものの、当時は式に生きた鳩を使っていた。ブレジネフによって開会宣言がなされると同時に、平和の象徴である鳩が飛ばされるという演出である。1988年に開催されたソウルオリンピックで、飛び放たれた鳩が聖火台に突撃し、焼死するというアクシデントがあって以降、オリンピックで生きた鳩が演出に使われることはなくなった[毎日新聞 2021]。

#### a-2) 閉会式

閉会式では、ブレジネフによる閉会宣言の他、人によるバレエを彷彿とさせるダンスやマスコットキャラクターであるクマのミーシャが大会テーマ曲《До свидания Москва》（また会う日まで モスクワ）とともに登場し、おとぎ話の世界に帰るまでが描かれる。開会式との違いは、観客席を使った演出がないことである。地上のトラックを使った演出だけを展開することで、ミーシャが空中を飛び、おとぎ話の世界へと帰っていく後々の演出を際立たせるためだと推測される。さて、クマのミーシャは、閉会式では高さ 10 メートルほどにも及ぶ巨大風船の形をして登場した。トラックに入場後、大会テーマ曲が流れると、人が板を持ちパネルで模られたミーシャの左目から涙が流れる演出がなされる。この演出は、一般的に、「ミーシャが西側諸国のボイコットに対して悲観の涙を流した」と解釈されることが多い。しかし実際には、そのような演出ではない。記録映画のナレーションを読み解く限りでは、ミーシャは、オリンピック大会を後にして、おとぎ話の世界に帰らなくてはならないことを悲しんで涙を流したと読み取れる。以上を経て、巨大風船のミーシャが、楽しかったオリンピックに別れと悲しみの意を表し、おとぎ話の世界へと帰るために空高く飛んでいくという姿を最後に式が閉幕する。記録映画では、この演出に対して涙を流す観客なども映し出される。オリンピック大会の終了を悲しいものに演出したかった側面が窺われる。

#### b) 多要素も織り交ぜた映像で紡がれたソチ五輪

ソチ五輪の開会式と閉会式は、ただ単純に式が執り行われる様子が映し出されているわけではないところに特徴を見出せる。即ち、選手のインタビューや試技の様子、ロシアの有名な観光地など、開会式・閉会式と直接関係しない映像が随時織り込まれる形で描写されているということである。また、技術の取り入れも大きく目立ち、ドローンを活用し光を用いて、空中に浮く人や動物が表現された。

##### b-1) 開会式

ソチ五輪の開会式は、人による群舞の他に、ドローン技術が使われている。聖火点灯のシーンとプーチン大統領による開会宣言も描かれている。開会式典の内容に直接関係する描写は非常に少なく、基本的には選手のインタビュー映像に織り交ぜられる形で式典の様子が描かれている。式に関して、式典の様子自体を写した映像が少ないことも特徴だと言える。ただしそのような中で、プーチン大統領による開会宣言の言葉は一字一句記録されていた。

##### b-2) 閉会式

ソチ五輪の閉会式は、ドローン技術の活用など、開会式と似た演出が多くある。開会式同様、直接的に閉会式とわかる描写は少なく、3時間にも及ぶ超大作の中で閉会式に充てられたのはわずか10分程度であった。ここでは、閉会式の閉幕にかけて、オリンピックキャラクターが登場していたことを記す。彼らは、モスクワ五輪に続きまたも巨大風船のような出で立ちでスタジアムに登場した。モスクワ五輪の時と異なっているのは、ミーシャのように名前こそないが、大会キャラクターの種類が増えたことである。ノウサギ、ホッキョクグマ、ヒョウの三体制となった[IOC 2022B]。ソチ五輪の閉会式でそれぞれのキャラクターは、スケートシューズやスキー板などを足元に身にまとい、閉会式に登場した。ホッキョクグマのキャラクターには、ミーシャとの連続性を彷彿させる演出があった。それは、ホッキョクグマのキャラクターが、モスクワ五輪でミーシャが空に飛んで行くシーンがスクリーンに映し出された後、聖火台の火を消すという演出である。ミーシャとの連続性を想起させるだけでなく、大きな役割が与えられていたことが分かる。スクリーンに映し出されたミーシャを見たホッキョクグマのキャラクターが悲しそうな表情になりながら目の前の火を吹き消す。すると、聖火台の火が消え彼の左目に一筋の涙が流れるという演出であった。

#### c) 小括

以上より、モスクワ五輪とソチ五輪の開会式・閉会式の特徴は次のように整理出来る。モスクワ五輪では、式の映像が淡々と映し出された。開会式・閉会式を通じて人の力が際限なく活用され、閉会式ではオリンピックが終了することへの悲しみが表現された。一方、ソチ五輪では式以外の映像も随時盛り込まれ、式とは直接関係ない映像が数多く盛り込まれた。

人力以外にも、映像技術やドローンを駆使するなど、最先端な事柄を取り入れていた。モスクワ五輪からの継承として、ミーシャの孫にあたるマスコットキャラクターのホッキョクグマが登場した。ホッキョクグマのキャラクターは、聖火を消す大役を担っただけでなく、ミーシャと同じように左目から涙を流すなどモスクワ五輪の演出を引き継いだシーンも見られた。しかしながら、大会終了に対してのイメージは異なり、悲しみに包まれるというよりは感動に包まれるという温かみに溢れる演出であった。

#### 4－4 選手

記録映画において、選手による大会での活躍は欠かせない描写である。以下では、各記録映画において、選手がどのように描かれていたのかを確認する。

##### a) 成功する選手が描かれたモスクワ五輪

モスクワ五輪は、各競技において優勝した選手を中心に描いている。主として選手の活躍をナレーションが補う形で、映画が進行し、誰がどの競技で優勝したのかが分かる内容に仕上がっている。ここから、失敗をしない強い選手像が求められていることが推測される。

##### b) 挑戦する選手が描かれたソチ五輪

ソチ五輪では、各競技に二人から三人の選手が選ばれ、それぞれのインタビュー映像とともに大会の結果を振り返る描写が取られている。選ばれた二人ないしは三人の選手は、日頃からライバル関係の選手たち、副業として警察官を務める選手、ロシアに帰化したアジア系選手などバックグラウンドが豊かな選手が多くいる。取り上げられた各競技複数人の選手は、必ずしも芳しい結果を残したわけではなく、思うような成績を残せなかった選手もいた。このような選手たちの努力の過程や成績などの意見や競技に対する想いを紡ぐインタビューもある。また、失敗やジンクスに対するインタビュー、女性選手の活躍に対するインタビューなど、選手の日頃の考えを垣間見る内容も多く見られた。選手の内面に肉薄するインタビューを通じて、ソチ五輪の記録映画では、人間の本质や挑戦する根源に迫ろうとしていたことが読み取れる。

#### 4－5 文化表象

記録映画がオリンピック大会の競技の様子を記録することはさることながら、開催国の文化描写がなされることも多くある。例えば、2008年の北京五輪では、開会式の演出で「中国絵巻を舞台にして「四大発明」、「文房四宝」、「万里の頂上」、「シルクロード」、「鄭和大航海」などに纏わる物語」が描かれている[周 2014：92]。ここで、モスクワ五輪とソチ五輪の文化表象として、記録映画内で描写された同国に関する大会競技以外の描写を示す。これを通じて、1980年時点のソ連文化と2014年時点のロシア文化の相違点を発見することで、両国にとって引き継がれた文化や新たに創出された文化を理解出来ると考える。

a) 直接的な映像を入れたモスクワ五輪

モスクワ五輪の記録映画では、バレエとサーカスが主として取り上げられていた。一部、コサックダンスの描写もあった。これらは、次に映し出される競技と連関している。例えば、バレエで人々が内側を向いて円になって踊っているシーンが、ハンマー投げをする男性選手の助走と重ね合わされている。サーカスでクマが平均台を渡るシーンが、女子体操選手の平均台の演技へとつながる。このように、モスクワ五輪の記録映画では、競技映像へ入る導入の場で、実際のバレエやサーカスの映像を使っていた。

また、映画関係者を表示する冒頭のシーンでは、関係者の名前の背景にモスクワの観光地が映し出されていた。二部構成の記録映画で第二部が始まる初めのシーンでは、「モスクワが夜の散歩に適した街である」というナレーションが入るなど、モスクワ五輪の文化表象は、直接的であるとみなせる。ここからは、ソ連の文化を最大限伝えるようと試みる製作者の意図が見られるのではないか。

b) 大会内での文化表象を切り取ったソチ五輪

ソチ五輪の記録映画では、大会外から大会に無縁な映像を活用して文化表象をすることはほとんどなく、大会内での一幕を切り取った描写が多かった。例えば、大会会場の外で民族衣装を着て踊りながら楽器演奏をする人々や、メダル授与のスタッフが着ている衣装をズームインして詳細に映し出したりするという描写である。もっとも、一部、ロシア国有企業の РЖД<sup>7</sup> の高速列車と選手が雪山を滑る様子がリンクするなど大会競技場外の映像を用いた描写もあった。この高速列車を使った演出も、高速列車に乗った選手たちがメイン会場に向かう様子と共に映し出されていたことを踏まえると、必ずしも大会と無縁な様子ではないと言える。

大会マスコットキャラクターが映画全体を通してしばしば登場しているのも、ソチ五輪の文化表象と言えよう。モスクワ五輪では開会式と閉会式にしか登場しなかったことを踏まえると大きな変化だ。マスコットキャラクターがたくさん登場する理由として、その当時文化となっていなくても、映像として残ることで、キャラクターがレガシーとして根付くことが期待されているからだと考えることが出来る。キャラクターは、観客席に現れたり選手がもらうビクトリーブーケに印字されたりしたシーンが映し出されるなど、たくさんの場面で見られる。

以上より、ソチ五輪では、大会レガシーを意識した文化表象がなされていたと言える。大会レガシーを念頭に置いたために、大会内での描写や大会を発端としたキャラクターの描写が存分に描かれているのではないだろうか。

---

<sup>7</sup> РЖД とは、Российские железные дороги の頭文字を取った略称であり、ロシア国有の鉄道会社である [РЖД 2022]。

#### 4－6 映像表象

冒頭から幾度となく記述しているが、モスクワ五輪は 1980 年に開催され、ソチ五輪は 2014 年に開催された。時代が進むことで、映画を取り巻く映像環境も大きく変化しただろう。本節では、モスクワ五輪とソチ五輪の記録映画内で格段の効果を持っていると考えられる映像技術を挙げ、それらが映画にどのような効果を与えているのかを検討する。

##### a) モスクワ五輪

モスクワ五輪では、効果音としての音楽が多用されていた。作品の背景に映画用に作成された音楽がよく流れている。その他、シンセサイザーの音楽など、当時の最先端を行く音楽の演出が確認出来る。映像として、古代ギリシャをモチーフにしたアニメーションが挿入されていたことは特筆に値する。これは、走る競技の伝統が古代ギリシャにあることを示す映像や、古代ギリシャでは試合観戦すらも許されなかった女性が、アスリートとして大会に参加していることの連続性を示す形で扱われている。

モスクワ五輪の記録映画では、効果音やシンセサイザーの音楽を流すことで、映画に強弱や緩急を与えることに成功している。そのため、これらの音の表象は、映画につけられた効果音という印象が大きく前面に打ち出されているとみなせる。古代ギリシャを用いたアニメーションから読み取れる映像表象は、ソ連がオリンピックの起源であるギリシャを継承する国としてソ連がふさわしいとみなす姿勢やその正統性の連続性ではないだろうか。

##### b) ソチ五輪

ソチ五輪では、選手が画面上に複数人登場したり、無音処理や強調音声処理が掛かったりして、より試技内容に注目させる効果をもたらしている。例えば、スキージャンパーが台から飛んだ瞬間に周囲の音が消えたり、スケート選手がスピンをかけている際の氷が削れる音だけがフォーカスされたりするなどの処理である。他にも、コーチの声やタイマーが秒数を刻む音にフォーカスされる演出があった。映像に関して、開会式・競技・閉会式と単断に区切ることなく、インタビュー映像を織り交ぜながら展開していく様子からは、オリンピックが分断することなく一つに繋がっていくような印象を受ける。

ソチ五輪の記録映画では、音声の処理がなされることでいずれも、視聴者を、選手の試技や試合環境に集中させるという効果を見出せる。そのため、これらの音の表象は、選手目線で試合や競技、コーチの声を聴くという体験を視聴者に与えているものとみなせる。分断の見られない映像表象は、多様性の概念や男女の差などの超越といった意図の側面を思わせる。

#### 4－7 映画が看過した当時の状況

森達也による記録映画の位置づけを確認する。森によれば、記録映画は、特定の主題を設

定して事実を記録しているものではあるが、製作者の主観や世界観を表出することが最優先順位にあるものだという[森 2005:95]。そしてそのため、記録映画は、報道より客観性や中立性を欠けているといえるものだという[森 2005:95]。ここから明らかになるのは、記録映画に描かれるのは、報道ではなくあくまで製作者の主観や世界観だということだ。これは即ち、記録映画たるもの、報道ではないため中立性を失った内容になったとしても問題なく、むしろ報道とは異なる価値判断の元で題材が選定されていることを示すのではないか。

従って、モスクワ五輪とソチ五輪の双方の記録映画において、描かれない事柄にこそ、記録映画の世界観や製作者の主観に損なう内容が含まれていると考えられる。本節では、記録映画に描かれなかった事象として、モスクワ五輪での西側諸国のボイコットに至るまでの過程とソチ五輪でのロシアの国家ぐるみでの組織的なドーピングについて取り上げる。

#### a) 国際状況を見落としたモスクワ五輪

モスクワ五輪の記録映画で描かれなかったことに、西側諸国の政治的な対応が挙げられる。記録映画は西側諸国の選手が大会に不出場になったことへの悲嘆に着目するばかりで、アメリカなどの西側諸国がモスクワ大会をボイコットする直接的な理由となったソ連のアフガニスタン侵攻に関する描写はない。更に、アメリカがどのような経緯で不参加を決定したかに関する描写も一切ない。

以下では、西側諸国の代表的国家のアメリカがモスクワ大会をボイコットするまでの過程を確認する。前提として、アメリカは即座にボイコットを決断したのではなく、ボイコットに至らざるを得ない状況を想定し事前に表明していた。1979年12月27日、ソ連による軍事介入を経て、アフガニスタン・カブールでクーデターが発生した[池井 1983:83]。ソ連のアフガニスタン侵攻を受けてアメリカはまず、ソ連への遺憾の意を示す手紙を発表している。アメリカのカーター元大統領の手紙では、「アフガニスタンに対するソ連の侵略と制圧の企図は、国際法の重大な違反であり、かつ世界の平和に対する極めて危険な脅迫であると考え」ていることや「ソ連がアフガニスタンという独立国家を踏みにじりながら、同時にその国と商取引することは断じて許されない」という姿勢が示されている[清川 1987:81]。当時のアメリカ大統領のカーターは、1980年1月4日、全米テレビ放送を通じて、ソ連の軍事侵攻が続く場合の報復措置としてモスクワ五輪のボイコットを検討している旨を発表した[池井 1983:85]。しかし実際には、アメリカは、不参加を決定し西側諸国へ呼びかけざるを得ない状況を段階別に想定していた。①ソ連軍隊が今後一カ月以内にアフガニスタンから撤退しない場合に、②他国での開催や大会の中止を提言したうえでも尚、③五輪がモスクワで開催される場合にはオリンピックに参加しないことを呼びかけるという順序である[清川 1987:81]。そしてこれらの方策は、①が1980年1月10日にモンデール副大統領と大統領夫人のロザリン・カーターによって、②が1980年1月15日にパンス国務長官によってなされた。これらの呼びかけを経た上で、1980年1月20日にカーター大統領自らアメリカオリンピック委員会(UCOC)へ、「アメリカ及びアメリカの考えに賛同する国々



のオリンピック委員会は、モスクワ五輪に参加すべきではない」という趣旨の発表を行った[池井 1983 : 86]。そして、このカーター案は 1980 年 1 月 24 日にはアメリカ下院で可決され、ほどなくして上院でも可決された[池井 1983 : 86]。カーターの提案に起因したモスクワ五輪のボイコットを、UCOC が決定したのは、1980 年 4 月 13 日である[池井 1983 : 87]。

モスクワ五輪では、これらの背景を一切汲み取っていない。このような、西側諸国を率いるアメリカの考えや当時の国際状況について一切触れられずに記録映画が製作されている。更には、アメリカ国旗を持った観客を映し出したり、西ドイツの観光客が（ボイコットに伴う大会不参加の決定によって）「最も悲しむのは選手だ」と話すインタビュー映像を流したりした。それは、大会に国家の方針によって大会不参加を余儀なくされた選手やその現状に憂う観客にスポットを当て、国家による判断に振り回される媚の民を演出するためではないか。このようにして、ソ連はモスクワ大会において悲劇のヒロインを演じることに注力し、西側諸国との軋轢を生じさせた自国の責任を描写することを忌避したと判断せざるを得ない。

#### b) 組織的なドーピングを盛り込まなかったソチ五輪

一方のソチ五輪では、ソチ五輪を契機に行われたというロシアの国家ぐるみでの組織的なドーピング問題について一切触れておらず、あくまでロシアの汚点はないように描かれた。ドーピング問題とは、2014 年 12 月ドイツのドキュメンタリー番組が、ロシアによる国家的なドーピング問題を暴露したことに起因する、ロシアの国ぐるみでの組織的な問題のことを指す[AFPBB NEWS 2020]。これに対して当初、IOC はドーピングの問題はなく、ソチで行われた検査の公正を信じるとする旨を発表し[朝日新聞 2015A]、プーチン大統領もドーピングは個人の責任とみなし国家的な組織ぐるみでのドーピングの存在を否定した[朝日新聞 2015B]。しかし、2016 年に世界反ドーピング機関（WADA）の調査チームが開いた会見で、ロシアでは、「多くのスポーツで約 5 年間にわたり検体をすり替えるなどの手法でドーピングを隠していた」とする報告がなされることで、ドーピングの横行が確信的となった[朝日新聞 2016]。

ソチ五輪の記録映画が公開されたのは、大会終了翌年の 2015 年であるため、記録映画の製作スケジュールとの折り合いがつかず、ドーピング問題を記録映画内に入れられなかった可能性も否めない。ただ、WADA がロシアの国家的な組織ぐるみでのドーピング問題を報告した 2016 年までにも、選手ごとでのドーピング調査の結果などは随時報告されていた。このことを踏まえると、ソチ五輪の記録映画内にドーピング問題の描写が一切ないことは、選手の内面や心情を主軸に構成された記録映画において、強い意図の元で割愛されたテーマであると認識出来る。

## 第5章 記録映画分析のまとめ

第5章では、記録映画分析のまとめとして、それぞれの記録映画で描かれたことをまとめる。その上で、その記録映画から読み取ることが出来る、国家の姿や選手の理想像について考察する。

### 5-1 それぞれの記録映画で表現されたこと

#### a) ソ連の正当性を示したモスクワ五輪

伝統的な映画会社であるモスフィルムに所属し社会主義リアリズムの映画監督ユーリ・オゼロフによって製作されたモスクワ五輪の記録映画『О спорт, ты мир』は、大会執行の様子が厳かに描かれ、選手たちの成功や優勝に基づいて内容が進行した。それ以外にも、バレエやサーカスの実際の映像を用いた直接的な文化表象や、効果音としての音楽や古代ギリシャをモチーフにしたアニメ映像を活用する映像表象を通して、西側諸国のボイコットという通常のオリンピック大会の状況としては異常な状況下においても、開催都市モスクワが滞りなく大会運営を完遂した様子が描かれている。一方で、ボイコットを呼びかける主体となったアメリカをはじめとする西側諸国がボイコットを決定するまでの過程は描かれなかった。ここから、モスクワ五輪の記録映画は、バレエやサーカスなどソ連の伝統的な文化と共に大会の経過を描いた作品だと言える。

以下では、このような作品を製作した意図について考察をしたい。記録映画を通じて描かれていることは、(1) ソ連の大会運営能力の高さと世界をけん引する能力、(2) ソ連の人材を大切にすることとそれに対照的なアメリカの対応の二点であると考ええる。

まず、モスクワ五輪の記録映画は、西側諸国が大会をボイコットする中、開催都市モスクワがいかに滞りなく大会運営を成しえたのかを描いた。これは、即ち、ソ連の国力を以てして成しえた快挙のアピールであると考ええる。記録映画には、国際オリンピック委員会会長による西側諸国のボイコットへの批判コメントだけでなく、選手の応援が出来なくなって悲しんでいる観客のインタビューがあり、ソ連が苦境に立たされたことが客観的に示されていた。更に、ソ連の大会運営を褒め称える国際オリンピック委員会会長の会見映像を流すことで、大会成功のイメージも強く描き出した。

このような、ソ連の大会運営成功のイメージと連動される形で、大会に参加した選手は一部例外を除き<sup>8</sup>、いずれも優勝を収めたいわば「成功した」選手のみが描かれた。ここで注目したいのは、大会参加者に西側諸国の選手が少なかったことも相まって、生み出された大会新記録や世界新記録のほとんどを、東側陣営の選手が樹立したということである。強い東側のイメージと国際社会における覇権争いでの成功は、必ずしも無縁ではないだろう。記録

---

<sup>8</sup> 男子フルマラソンに出場したイギリス人選手二名が取り上げられた。彼らは兄弟で、映画内では兄と弟の競争が描かれた。それぞれ 39 位と 42 位という結果で試合を終えた。

映画の「より速く」のパートでは、とりわけ走る競技に多くの時間が割かれ、古代ギリシャでの様子を示したアニメーション映像と共に映像が組み立てられている。こうすることで、走る競技が古代ギリシャから続く伝統的な競技であることを示している。これは、スポーツの祭典の起源である古代ギリシャに対しての正統性を、政治的な理由で大会をボイコットしたアメリカおよび西側諸国ではなく、ソ連が有していることのアピールに繋がっていると推測する。このような状況下でも、古代ギリシャから続く伝統に則って大会を実施・運営したソ連の自信として表れているのだろう。この表れは、文化表象において、自国の有名な文化シーンの映像を直接取り入れていることから推測される。ソ連が文化的な伝統性をも有している文化的な成熟度が高い国であることを示そうとしているのではないか。更には、モスフィルムによる記録映画の製作も、国家としてのソ連が、歴史を踏襲しているモスフィルムのように「オリンピックの伝統を重んじる」国家であることを示す暗喩かもしれない。

次にソ連が人材を大切にするというメッセージは、開会式や閉会式で大量に動員された人々や西側諸国の観客などにもフォーカスをしていることから読み取れる。技術に多くを頼ることなく企画された開会式や閉会式がそれを物語っている。また、西側諸国の選手団の副会長や西側諸国からの観客の意見を吸収<sup>9</sup>していたことから、人材を大切にす国家だということが分かる。加えて、「未来のチャンピオンになる子どもを、ソ連ではみんなで大切に育てます。」というナレーションからも、ソ連が子どもを含めた人材を大切にす国だということが窺える。一方で、アメリカは選手の想いを汲み取らずに政治的な理由で大会をボイコットした国だとみなすソ連の姿勢があるのではないか。このようにアメリカと対照的なソ連の姿を描き出すことで、アメリカに対するソ連の優位性を示したかったのではないだろうか。

#### b) 選手の内面を示し世界の繋がりを表現したソチ五輪

比較的新しい映画会社スタジオオーストラフに所属し自身で脚本を手掛けることも多い映画監督セルゲイ・ミロシュニチェンコによって製作されたソチ五輪の記録映画『Кольцо мира』は、大会開催に沸くにぎやかな街の様子を据えつつ、各々のインタビュー映像とともに、選手たちの内情や日頃の練習風景またトレーナーの内情までもが紡がれた。それ以外にも、大会内で活躍したマスコットキャラクターの度重なる登場や大会に際して建築されたスタジアムなど大会に関連する映像を用いた文化表象や、無音処理や音声強調処理などを活用し選手の臨場感を際立たせる映像表象を通じて、開催都市ソチが、世界や視聴者と一つに繋がっていく様子が描かれている。一方で、大会開催時にも横行していたロシアの国家的

---

<sup>9</sup> 記録映画では、選手を派遣できなくなった日本の選手団副会長が「選手たちを派遣できなくなって悲しい」と述べたシーンや西ドイツからの観光客が「選手が一番練習してきているのに、政治的な理由で大会に出られなくて可哀想だ」と述べたシーンがあった。

な組織ぐるみでのドーピング問題については描かれなかった。

以下では、このような作品を製作した意図について考察をしたい。記録映画を通じて描かれていることは、(1) 開催国の枠に留まらず共通する普遍的な選手心理やトレーナー心理を通じて世界や視聴者と繋がろうとするメッセージ、(2) 時代が変化する中で、ロシアが伝統を重んじつつも新規に革新的に挑戦していく姿の二点であると考ええる。

まず一点目に、ソチ五輪の記録映画は選手の内面に注目する形で、選手が大会にどのようにアプローチしたのかが分かる形で描かれた。例えば、競技に向き合う選手の内面を表す心情をベースに、大会に挑戦する選手の心意気や目標、更には競技を始めたきっかけについても議論されている。複数人登場したコーチやトレーナーも、選手指導にあたる姿だけでなく、家庭での様子が描き出された。警察官の傍らスキージャンプをする女性選手や企業勤めをし子育ての傍らカーリングをする女性選手などが登場し、選手が日常について語るインタビューでは、そもそもスポーツアスリートだけが大会に出場するのではないのだと考えさせる。また、ロシアにルーツを持つ様々な人を取り上げることで、彼らの抱える葛藤や葛藤の先に見えたものについて取り上げられている。ある者は、ロシアに帰化した自分自身の立場に悩むも、団体戦ショートトラックでの会場の声援を受けたことが自らの自信になったと語った。またある者は、スイスとロシアの双方にルーツを持つ自分自身の実のふるまい方に葛藤し、練習場として使用するスイスも大会で大きな声援をもらったロシアも、双方を自らのルーツだと認めた。このような選手の内面に肉薄するインタビューを通じて、国籍の違いや性別の違い、選手と視聴者という立場の違いを越えて、記録映画は多様性を考えさせるきっかけを与え、私たち人類に共通する要素で繋がっていくという壮大な演出がなされていた。

次に、ソチ五輪で描かれる選手は必ずしも、強くて成功する選手だけではない。選手らは、競技失敗やけがの怖さ、自身の競技の引退時期や諦めの存在についても議論している。ロシアの皇帝とも名高い、エフゲニー・プルシェンコ（ロシア語: Евгений Плющенко、1982-）は、男子フィギュアスケートの直前大会練習のタイミングで体を故障し、大会を棄権する決断をした。このように、かつては屈強な側面が強調されていた選手の弱い面にも肉薄する記録映画は、これからのロシアの目指す方向性をも示しているものだと思慮する。米中の覇権争いの時代ではなくなり、新しい国際秩序が築かれている今だからこそ、ロシアの立ち位置を刷新していく意思が込められているのではないか。ソチ五輪での文化表象は、これまでのロシアの文化を表象するものでなかった。むしろ、大会や大会マスコットキャラクターなど、大会の開催や大会終了後になってからロシアの文化として歴史を刻む事柄に視点が向いていた。これは、ロシアが既存のもの以外にも新しく挑戦しようとする姿勢を打ち出しているのではないか。しかしながら、全てを顧みないのではなく伝統を継承する姿勢があることは、ノウサギのマスコットキャラクターによる閉会式の演出からも明らかである<sup>10</sup>。この伝統を

---

<sup>10</sup> モスクワ五輪のマスコットキャラクター：ミーシャを彷彿とさせる描写があった。詳細

重んじつつも新規に革新的に挑戦していく姿は、映画の製作会社でもあるスタジオオーストラフからも読み取れるだろう。比較的新しく挑戦の気鋭があるスタジオオーストラフとロシアの国営テレビ局とのタッグは、まさしく伝統を重んじつつも新規に革新的に挑戦していく姿勢そのものであると認識出来る。

おわりに 今後のスポーツ祭典で描かれる国家としてのロシアの姿について

以下では、ロシアで記録されるスポーツの記録映画の今後の方向性を簡潔に示唆したい。

本稿では、モスクワ五輪の記録映画では「伝統」をキーワードに、ソチ五輪の記録映画では「挑戦」をキーワードに語った。しかし後者の挑戦には、抗う挑戦だけではなく、調和を求めるなど平和的解決に向けての挑戦も含まれていると筆者は解釈する。モスクワ五輪の開催時には米国と熾烈な覇権争いを繰り広げていたソ連は解体した。ソチ五輪の開催時にはロシアではなく、中国が米国との覇権争いを行っている。このように国際秩序が変化する中で、ロシアにも新しい姿勢を固める時期が迫っているのかもしれない。2036 年夏季五輪が、ロシアが開催誘致を検討しているサンクト・ペテルブルグやカザンで開催されるとするならば、その時の記録映画にはロシアのどのような姿勢が描き出されるのだろうか。伝統重視の姿勢か挑戦の姿勢か、はたまた置かれた国際状況が異なれば、新しい側面を見せてくれるのかもしれない。筆者は、今後のロシアのスポーツの更なる発展に期待を寄せている。

## 参考資料

### 一書籍・論文一

池井 1983 池井優.「モスクワオリンピック、ボイコットの政治過程」『慶應義塾大学創立一二五周年記念論文集：法学部政治学関係』慶應義塾大学法学部. 1983.(10). pp77-pp100.

( [https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara\\_id=BN01735019-00000002-0077](https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=BN01735019-00000002-0077),を参照。最終アクセス 2022-01-29)

川端 1989 川端香男里など編.『ロシア・ソ連を知る事典』. 平凡社. 1989 年,p260.

清川 1987 清川正二. スポーツと政治：オリンピックとボイコット問題の視点. ベースボール・マガジン社. 1987.

佐藤 2001 佐藤和枝. “映画の記述をめぐって--映画分析における方法論の問題” 学

---

は、第4章3節 b-2)を参照されたい。

- 習院大学ドイツ文学会研究論集. 学習院大学ドイツ文学会. 2001. (5), pp137-157.  
([https://glim-re.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=1585&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://glim-re.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1585&item_no=1&page_id=13&block_id=21)), を参照。最終アクセス 2022-01-29)
- 塩川 1993          塩川伸明. 終焉の中のソ連史. 朝日新聞社. 1993.
- 周 2012          周星. “北京オリンピック開会式と「イメージング・チャイナ」”. 文明 21. 愛知大学国際コミュニケーション学会. 2012. (29), pp81-pp106.  
([https://aichiu.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=4031&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=17](https://aichiu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=4031&item_no=1&page_id=13&block_id=17)), を参照。最終アクセス 2022-01-29)
- 田中 2012          田中東子. 『メディア文化とジェンダーの政治学』. 世界思想社. 2012. pp165-194.
- ジュールズ 2020          ボイコフ・ジュールズ 井谷恵子訳. “祝賀資本主義, スポーツメ  
    ガイベント, 東京 2020 オリンピック” スポーツとジェンダー研究. 日本スポーツと  
    ジェンダー学会. 2021.(19), pp67-79.  
([https://www.jstage.jst.go.jp/article/sptgender/19/0/19\\_67/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/sptgender/19/0/19_67/_pdf/-char/ja)), を参照。  
最終アクセス 2022-01-29)
- 溝口 2011          溝口修平. “ロシアの「強い」大統領制?--「重層的体制転換」における制  
    度形成過程の再検討” ヨーロッパ研究. 2011.(10), pp51-74.  
([http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/download/ES10\\_mizoguchi.pdf](http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/download/ES10_mizoguchi.pdf)), を参照。最終ア  
    クセス 2022-02-27)
- 森 2005          森達也. 『ドキュメンタリーは嘘をつく』. 草思社. 2005 年
- 吉見 2020          吉見俊哉. 『五輪と戦後』. 河出書房新社. 2020 年
- 渡会 2017          渡会環. “リオデジャネイロオリンピック開会式にみる〈ブラジル〉の表  
    象”. 共生の文化研究 = Journal of cultural symbiosis research. 愛知県立大学多文化  
    共生研究所. 2017.(11), pp6-pp12.  
(<https://aichi->

pu.repo.nii.ac.jp/?action=pages\_view\_main&active\_action=repository\_view\_main\_item\_detail&item\_id=3118&item\_no=1&page\_id=13&block\_id=17, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

—新聞記事—

朝日新聞 2015A 朝日新聞のデータベース「聞蔵Ⅱビジュアル」で検索した記事  
“ソチでの検査「公正と信じる」 ドーピング問題、I O Cが見解”. 朝日新聞. 2015-11-11(A), 夕刊. 社会面.  
(<http://database.asahi.com.kras1.lib.keio.ac.jp/library2/main/top.php>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

朝日新聞 2015B 朝日新聞のデータベース「聞蔵Ⅱビジュアル」で検索した記事  
駒木明義. “プーチン氏「個人の責任」 ドーピング疑惑で初見解”, 朝日新聞. 2015-11-12(B), 夕刊. 社会面  
(<http://database.asahi.com.kras1.lib.keio.ac.jp/library2/main/top.php>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

朝日新聞 2016 朝日新聞のデータベース「聞蔵Ⅱビジュアル」で検索した記事  
駒木明義.” ロシア、ドーピング隠蔽 大半の競技、政府関与 WADA 認定”. 朝日新聞. 2016-07-19, 夕刊. 総合面.  
(<http://database.asahi.com.kras1.lib.keio.ac.jp/library2/main/top.php>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

毎日新聞 2021 岩壁峻. “ロバク、ハト焼死… 物議や話題呼んだ五輪開会式の演出あれこれ”. 毎日新聞. 2021-03-19,  
(<https://mainichi.jp/articles/20210319/k00/00m/050/004000c>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

読売新聞 2021 工藤武人. “ロシア、2036年夏季五輪招致を検討…古都サンクトペテルブルクや中部カザンの名前” 読売新聞, 2021-08-13,  
(<https://www.yomiuri.co.jp/world/20210813-OYT1T50234/>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

日本経済新聞 2014 日本経済新聞. “ソチ五輪 ロシア人、会場観戦予定「0%」”. 2014-02-03,  
([https://www.nikkei.com/article/DGXNASDG0300T\\_T00C14A2CR0000/](https://www.nikkei.com/article/DGXNASDG0300T_T00C14A2CR0000/), を参照。

最終アクセス 2022-01-29)

ーインターネットサイトー

Searchina 2014 今関忠馬. “ロシア世論調査、約 7 割が「ソチ五輪の成功を信じる」 = 中国報道”. Searchina. 2014-02-01,  
(<http://news.searchina.net/id/1522912>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

国立映画アーカイブ 2019 国立映画アーカイブ. “オリンピック記録映画特集”. 2019-11-14,  
(<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/olympic201910/>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

笹川スポーツ財団 2021 笹川スポーツ財団. “オリンピックと映像～記録と芸術のド ラ マ ” . 2021-06-04,  
([https://www.ssf.or.jp/ssf\\_eyes/history/olympic\\_legacy/43.html](https://www.ssf.or.jp/ssf_eyes/history/olympic_legacy/43.html), を参照。最終アクセス 2022-01-29)

濱崎綾子 2014 濱崎綾子. “ソチと日本の雪事情”. Yahoo! Japan. 2014-02-20,  
(<https://news.yahoo.co.jp/byline/sakihamaayako/20140220-00032766>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

RUSSIA BEYOND 2018 ボリス・エゴロフ. “ソ連版オリンピックは本家を凌いでいた”. RUSSIA BEYOND. 2018-08-13,  
(<https://jp.rbth.com/history/80682-soren-ban-olympic>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

CNN 2014 CNN. “米国民 5 7 %、ソチ五輪でのテロ発生を予想”. 2014-02-08.  
(<https://www.cnn.co.jp/usa/35043638.html>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

IOC 2014 IOC. “ソチ 2014 公式映画 | Rings of the World ” . 2014.  
(<https://olympics.com/ja/original-series/episode/sochi-2014-official-film-rings-of-the-world>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

IOC 2016 IOC. “モスクワ 1980 公式映画 | O Sport, You Are Peace!”. 2016.  
(<https://olympics.com/ja/original-series/episode/moscow-1980-official-film-o-sport-you-are-peace>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)



- IOC 2022A IOC. “Official Films”. 2022A,  
(<https://olympics.com/ja/original-series/official-films/>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)
- IOC 2022B IOC. “ SOCHI 2014 THE MASCOT ” . 2022(B).  
(<https://olympics.com/en/olympic-games/sochi-2014/mascot>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)
- JOC 2013 JOC. “ソチ冬季五輪、雪不足はなし ロシア五輪委員会会長”. 2013-11-17,  
( <https://www.joc.or.jp/sp/games/olympic/sochi/news/detail.html?id=4613>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)
- JOC 2022 JOC. ”カレンダー”. 2022,  
(<https://www.joc.or.jp/calendar/2023/game.html?mode=pc>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)
- AFPBB NEWS 2007 PIRATE IRWIN. “2014 年冬季五輪 開催地はソチに決定”.  
AFPBB NEWS .2007-07-05,  
(<https://www.afpbb.com/articles/-/2248979>,最終アクセス 2022-01-29).
- RUSSIA BEYOND 2018 RUSSIA BEYOND. “ソ連版オリンピックは本家を凌いでいた”.  
2018-08-13,  
(<https://jp.rbth.com/history/80682-soren-ban-olympic> , を参照。最終アクセス 2022-01-29)
- AFPBB NEWS 2020 SOPHIE RAMIS. “【図解】ロシアのドーピング問題、これまでの経緯”.AFPBB NEWS. 2020-01-03,  
(<https://www.afpbb.com/articles/-/3261223>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)
- ВГИК 2022 ВГИК. “официальная информация”. 2022,  
(<https://vgik.info/today/>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)
- Мосфильм 2022А Мосфильм. “ О спорт, ты - мир! ” . 2022А.  
(<https://cinema.mosfilm.ru/films/35728/>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

Мосфильм 2022В          Мосфильм. “ История Мосфильма ”          2022В.  
(<https://mosfilm.ru/concern/hystory/>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

Мосфильм 2022С          Мосфильм. “Броненосец "Потемкин" ("1905 год)". 2022С,  
(<https://cinema.mosfilm.ru/films/34649/>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

Мосфильм 2022D          Мосфильм. “Война и мир. Фильм 1. Андрей Болконский”. 2022D,  
(<https://mosfilm.ru/movies/37649/>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

Первый Российский Национальный канал 2022          Первый Российский Национальный  
канал. 2022,  
(<https://prnk.ru/>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

РЖД 2022          РЖД (Официальный портал ОАО).  
(<https://www.rzd>, を参照。最終アクセス 2022-02-27)

Студия Остров 2015          Студия Остров. “Кольца мира”. 2015,  
(<http://ostrov.studio/stillrings>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

Студия Остров 2022          Студия Остров. “О СТУДИИ”. 2022,  
(<http://ostrov.studio/about>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

ТАСС 2014          ТАСС. “Киностудия "Мосфильм" отмечает 90-й день рождения”. 2014-11-  
30,  
(<https://tass.ru/kultura/925015>, を参照。最終アクセス 2022-01-29)

ТАСС 2022А          ТАСС. “ Озеров, Юрий Николаевич ” . 2022А,  
(<https://tass.ru/encyclopedia/person/ozero-v-yuriy-nikolaevich>, を参照。最終アクセス  
2022-01-29)

ТАСС 2022В          ТАСС. “Мирошниченко, Сергей Валентинович”. 2022В.  
(<https://tass.ru/encyclopedia/person/miroshnichenko-sergey-valentinovich>, を参照。最終  
アクセス 2022-01-29)